

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 (京丹後市立峰山こども園)

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<p>“笑顔でつなごう。みんなの てとて!!” — はなそう・つたえよう・みんなのおもい —</p> <p>(1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○峰山学園、関係機関と連携を持ち、職員の研修や保護者との懇談や面談を重ねることができた。 ○生活や活動を進める上で言葉の大切さを伝えていくことができた。また、話すことや聞くことを意識し行動することができるようになった。 ○園児一人一人が主体的に取り組めるような言葉かけや環境を整えることで人や物への関わりを意識しながら行動できるようになった。 △保護者・地域に開かれた園として信頼関係に努める。 △乳幼児保育教育の研修を深め実践につなげる。</p>	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>(1)幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2)自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3)幼児の実態や発達に合わせ支援し、共に育ち合う集団をつくる。 (4)保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (5)峰山学園(園から小中一貫教育)の連携を進める。</p>
<p>評価項目 小中一貫 教育の推 進 (保幼小 接続)</p>	<p>重点目標</p> <p>○『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 (1)意欲を持って自ら学ぶ子ども(知) ・友だちとかかわりながら遊びや生活を発展する。 (2)思いやりのある子ども(徳) ・あいさつをする。 ・保育者や友だちと話をする。 (3)進んで心と体を鍛える子ども(体) ・保育者や友だちといろいろな運動遊びに挑戦する。</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○峰山学園の経営会議において各学校・園の状況の報告を受け、自園でのように乳幼児保育を進めていくのが良いのか課題を明確にすることが出来た。特にことばの力では、各年齢や個々の実態に合わせて話す・聞く・話し合い・実践へと進めていくことができた。 ○異校種連携や交流では、参観や担任会・合同研修などを通して園児や生徒の状況を縦の繋がりとして園児も職員も学ぶことができた。また、関係機関ともスムーズに連携を持つことが出来、学びと実践につながっていくことができた。 △私立園との交流は、経営上の違いがあるものの乳幼児保育者として職員同士の研修交流を5歳児だけでなく各年齢で計画的に進めていくことが必要と感ずる。</p>
<p>具体的方策</p>	<p>(1) 峰山学園経営会議を通して子ども達の実態から課題を見つけ、共通の目標を持つ。(ことば力・聞く力・話す力からのコミュニケーション能力を育てる) (2) 中学校との連携 ・福祉体験での交流・参観交流 (3) 小学校との連携 ・発表会(生活・音楽)鑑賞・参観と連絡会 ・運動会見学・散歩・体験入学・保育参観と研修会 ・小1スタートカリキュラムの考察と検討実践 (4) 私立園との交流 ・5歳児交流会・峰山学園担任会 (5) 高校生との連携 ・花の種植えと交流</p>	

<p>教育課程</p>	<p>○幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。</p> <p>○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。</p> <p>○自分の思いや考えを表現したり行動できる力を養う。</p> <p>○日常的に園内外の安全指導・安全対策に留意する。</p>	<p>(1)園内外の自然の中で発見や感動を持つ。 (園内)・砂・泥・水遊び・プール遊び・野菜・花づくり・小動物の飼育 ・園内の草木・野菜・花づくり・公園で遊ぶ)・遠足 (園外)・散歩(農道を歩く)・小動物捕り ・よもぎ摘み・小動物捕り ・泥んこあそび(田植え・稲刈り)など</p> <p>(2)あいさつ運動・元気に挨拶を交わし一日を始める。</p> <p>(3)登園時間や子ども達の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。</p> <p>(4)活動や行事に向けての話し合いの時間や場を持つ。 ・自分を知り、友達の良いところを伝える。 ・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。</p> <p>(5)散歩・交通教室などで交通ルール・集団でのルールをともに考えたり知らせたりする。また、保護者会や交通安全・危機管理について学び合う。</p>	<p>○園舎の周りは、田畑に囲まれ近くには京丹後警察や京丹後鉄道が通っているなど、自然環境と園児が興味関心の持てる公共施設に恵まれ、生活に必要な感動体験を通して豊かなことばの力へとつなげることができた。</p> <p>○「一日の始まりは朝の挨拶から」を職員一人一人が丁寧に対応することで園児の状況を日々、しっかりと把握することができた。早朝延長保育を受けている園児も多いため、職員間の連携もしつかり持つことで園児教育を進めることができました。</p> <p>○個々実態に合わせて、クラスや年齢・行事や活動に合わせ集団としての内容を園児や職員と相談しながら進めていくことでそれぞれが達成感と充実感を味わうことができた。</p> <p>△大規模園であり各年齢の人数も多いが、幼児教育も前の乳児保育を改めて捉え方や個々への対応について学び個々の対応や支援のもと適切な関わりを行うことが必要である。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い支援する。</p>	<p>(1)子育て相談(随時) (2)園庭開放(毎週金曜日) (3)園開放(月2回)</p> <p>(4)預かり保育 (5)支援センターの利用 (6)一時預かり制度の利用</p>	<p>○いつでも相談を受けられることが出来るように園児の実態を把握し、担任から状況報告や連絡相談を密におこない対応することができた。</p> <p>△引き続き、相談を受け連携を取っていく。</p>
<p>家庭・地域との連携</p>	<p>○自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。</p> <p>○人とかかわりの中での言葉の使い方・必要性や大切さに気づき楽しむ。</p>	<p>(1)登園時間を9時までとし、集団としての生活リズムや活動の楽しさを知らせる。</p> <p>(2)園での様子をたよりやホームページなどで発信し、保護者や地域の方とともに教育保育を進めていく。</p> <p>(3)保護者・地域・社会人講師を迎えて様々な体験をする。</p> <p>・絵本の読み聞かせ・野菜の苗植えと定植・稲作り ・運動あそび・音楽鑑賞・交通教室・ALTとの交流</p>	<p>○生活リズムを整えることが園児の成長発達のために必要なことを保護者に伝え、毎日決まった時間に朝マラソンや体操を行い、体を目覚めさせたことでもスムーズな集団生活が進んでいった。</p> <p>○ホームページで園の活動や様子を情報発信することができた。</p> <p>△早朝・延長保育を受ける園児が多いこと、職員の勤務体制により、個人面談や懇談会など保護者との連携を進めているが、個人的に声をかけて欲しい保護者が多く、引き続き、子育て相談ができる方法を考えていく必要がある。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>○職員間の報告・連絡・相談を徹底し、全職員の連携を密にする。</p> <p>○0歳児～5歳児の一人一人の捉え方と発達を促し、保護者や関係機関との連携を持ち、教育保育を進めていく。</p>	<p>○職員間の報告・連絡・相談を徹底し、全職員の連携を密にする。</p> <p>○0歳児～5歳児の一人一人の捉え方と発達を促し、保護者や関係機関との連携を持ち、教育保育を進めていく。</p>	<p>○職員間の報告・連絡・相談を徹底し、全職員の連携を密にする。</p> <p>○0歳児～5歳児の一人一人の捉え方と発達を促し、保護者や関係機関との連携を持ち、教育保育を進めていく。</p>



教育課程		<p>○生きた基礎力の徹底を図る。</p> <p>○衛生指導、園内事故防止指導、交通安全指導、食生活指導、豊かな表現の場を創出し、言葉の力を育むこと、話し合いの場を創出し、心豊かな人間関係を結ぶこと、年齢に応じた活動の充実を図る。</p> <p>○身近な人や地域との関わりを大切にし、園生活の充実を図る。</p>	<p>○生きた基礎力の徹底を図る。</p> <p>○衛生指導、園内事故防止指導、交通安全指導、食生活指導、豊かな表現の場を創出し、言葉の力を育むこと、話し合いの場を創出し、心豊かな人間関係を結ぶこと、年齢に応じた活動の充実を図る。</p> <p>○身近な人や地域との関わりを大切にし、園生活の充実を図る。</p>
子育て支援	<p>○発達年齢に応じた家庭教育的な支援を行う。</p> <p>○保護者や園生活の充実を図る。</p> <p>○不安や悩みを解消し、安心して子育てができるよう支援を行う。</p> <p>○社会環境や家庭環境の改善を図る。</p>	<p>○家庭へ「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の領域に関する指導、園・担任より「たより」「子育て相談」「懇談会」「保護者会」等を通して発信し、年齢に応じた活動の充実を図る。</p> <p>○日常的な子育ての場、親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援を充実させる。</p> <p>○発達特性、個性や課題等に関わり、個に応じた、丁寧な子育て支援を行う。</p>	<p>○年間を通して、家庭教育指導について「園・クラス」等「園HP」「子育て相談」「個人懇談」「保護者会」等により、子育て支援の充実や家庭の教育力の向上を目指して、発信や連携を充実させることができる。</p> <p>○園開放、日曜園や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援の充実を図る。</p> <p>△バス通所、多様な降園時刻への降園対応により、保護者と毎日直接会話をしたり、懇談会、保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援の充実を図る。</p>
家庭・地域との連携	<p>○園・家庭・地域との連携の仕組を整理し、充実させる。</p> <p>○地域の環境や人材の豊かさを生かす。</p>	<p>○大宮子ども家庭支援センター、HP、電話による家庭連絡、園内教育活動の充実を図る。</p> <p>○園だより、懇談会、参観等、効果的・効率的に家庭・地域との連携の充実を図る。</p>	<p>○大宮子ども家庭支援センター、HP、電話による家庭連絡、園内教育活動の充実を図る。</p> <p>○園だより、懇談会、参観等、効果的・効率的に家庭・地域との連携の充実を図る。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○全ての園生活を通して、効果的・持続的につなぐ。</p> <p>○心豊かな子どもを育てたい。</p> <p>○幼児教育の質を高めたい。</p> <p>○さらさらの園生活を実現したい。</p>	<p>○大宮子ども家庭支援センター、HP、電話による家庭連絡、園内教育活動の充実を図る。</p> <p>○園だより、懇談会、参観等、効果的・効率的に家庭・地域との連携の充実を図る。</p>	<p>○大宮子ども家庭支援センター、HP、電話による家庭連絡、園内教育活動の充実を図る。</p> <p>○園だより、懇談会、参観等、効果的・効率的に家庭・地域との連携の充実を図る。</p>

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立網野こども園 ]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)	
(1) 園児自らが環境に関わり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。				どきどき わくわく さらっ! ひとりひとりひりがかがやいて ～仲間とつながりながら 夢中になって遊ぶ子どもをめざして～	
(2) 自分の思いや考えを表現したり、行動したりする力を養う。					
(3) 園児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。					
(4) 常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。					
(5) 地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。					
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「網野学園」のめざす子ども像をもとに、学園の基本方針を理解しながら取り組を進める。</li> <li>・園児と児童の交流会や保育教諭と教師の研修の場を重視し、相互理解を深める。</li> <li>・学園のアプリチャプログラムに園の独自性を加えて実践し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながりを明確化していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットを活用したり、小中一貫教育に関する会議や研修等に積極的に参加したりして、全職員で共通理解する。</li> <li>・運動会やマラソン大会、学習発表会等の学校行事を見学させてもらったり、園行事にも参加依頼をしたりする等して、交流が深まるようにする。</li> <li>・アプリチャプログラムを活用して日々の保育実践を検討し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とつなげて捉え、検証していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体研修会や学年部会には積極的に参加するよう職員に誘い掛け、勤務体制に支障がない程度に参加できた。</li> <li>○ △ 網野学園全体研修会後の懇親会に全職員が参加し、小中学校の先生方と交流できたことは、校種間でも好評価だった。小中一貫教育の意識が深まっていることを感じたり、実践できていないところがある。今後は、不足のところを検証していきたい。</li> <li>○ 5歳児を中心に、交流する機会が多くもてた。特に小中学校の先生方に発表会を最後まで参観してもらえたことは、園の教育保育を伝える絶好の場となった。</li> <li>○ △ 5歳児の指導計画や担任会の中で、実践記録やDVD視聴等を利用して、「10の姿」を系統立てて検証していった。今後は園内の接続にも反映させたい。アプリチャプログラムは、市全体で見直しの時期になっているので、園内の特性を活かしたのもも検討したい。</li> </ul>		

教育課程	<p>どきどきわくわくきらっ！ ひとりひとりがやがやが ～仲間とつながって遊ぶ子ども 夢中になって遊ぶ子どもを めざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい園生活を過ごせるようにする。</li> <li>・主体的、対話的な活動をくり広げられるような環境づくりをする。</li> <li>・人とつながり合うことの喜びを味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の園児と心をつなぎ、個々が安定できる園生活を創造する。</li> <li>・自らが健康や生活に関心をもち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。</li> <li>・園児が主体的に協同的な遊びを展開するよう遊ぶ機会を大切にする。</li> <li>・集団でなければできないこと、大勢ですると楽しいことに気付かせ、周りの友達や人に関心をもちたせる。</li> <li>・友達よさや友達と一緒に過ごす心地よさを感じさせ、人とつながることの喜びを味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○△要支援児が多い中、教育支援会議、年中児発達サポート事業、3歳児検診等をきっかけに、保護者との面談を数多くもち、医療や療育機関等につなげることができた。園児の安心安定にもつなげているが、家庭の事情もあり課題が継続しているところもある。</li> <li>○△園生活に慣れ、スムーズに生活を進めたり伸び伸びと活動したりするようになった園児が多いが、家庭生活の状況が原因で、不安定さが見られることもある。</li> <li>○△4歳児を中心に、協同性や思考をくぐらせる遊びや活動を重視してきたが、園としての教育保育の基盤をつくっていくことに難しさを感じる。</li> <li>○運動会や発表会という大きな行事を経験する中で、“友達と一緒に楽しい”“同じことがやってみよう”“やってみよう”という意識につなげることができた。</li> <li>○協同的な活動や遊びをすることで、各年齢や異年齢のつながりが深まり、個々の力や集団としてのよさが見られるようになった。</li> <li>○△発達課題のある園児や言葉による伝え合いがしにくく園児にとっては、友達よさをスムーズに受け止めることが難しいようだったが、友達とつながることに喜びを感じられるようになってきた。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園だより、クラスだより、懇談会等で保護者に園児の様子を知らせ、家庭と連携し、「子育て」をめざす。</li> <li>・園開放により、未就園の親子の保育体験を行い、子育ての安心安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス会を開催し、子育てに関することを考えたり振り返りたりする場とする。</li> <li>・保護者の話や相談に耳を傾け、一緒に課題解決に向けて進めていく。</li> <li>・月2回「園開放日」を設け、園児と交流したり、楽しく遊べる雰囲気や環境を設定したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全クラスの懇談会に参加し、保護者の雰囲気をつかんだり、子ども園開放当初にあたっての協力依頼をしたりするなどの機会をもった。</li> <li>○保護者からの相談を受けてアドバイスをしたり、要望を聞き、できる範囲で柔軟に対応したりしていった。</li> <li>○園開放だけでなく、毎週金曜日を園庭開放日にしたことによって、子どもだけでなく保護者同士が関わられる場となっている。</li> </ul>
(A) 研修 (教員の資質向上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解に努め、保育教諭等の資質向上をめざし、園内研修の充実を図る。</li> <li>・「主体的対話的な深い学び」を実現する保育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソード研修やワークショップ等の園内研修を通して「3つの資質能力」や「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」等が実践に活かされているかを明確化、言語化、可視化する。</li> <li>・月案や週案の立案、反省を通して、日々の具体的な実践例をあげて環境構成や保育教諭等の援助の在り方等を探っていく。(PDCAサイクルの重視)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月の園内自主研修が定着し、正職員だけでなく、臨時やパート職員の参加も見られるようになり、園全体としての資質向上につながっていると感じる。また、職員の方から提案したいと進めた研修もあり、その主体性に意識の変容を感じた。</li> <li>○△週案や反省、実践資料等の視点や書き方については一定の成果が見られるが、ねらいや見通しの持ち方に曖昧さもあり、引き続き職員集団の研鑽が必要である。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<p>網野こども園開園にあたり、教育保育を示してきたが、十分ではないものの、視野こども園開園に向けた教育保育を重視した教育保育を全正職員に周知し、改善のポイントを</p>	<p>園児の特性と内面理解、職員同士の関係性等、様々な課題解決に向けた基盤が確立してきたのではないかと考える。次年度は、さらに今年度の保護者アンケート結果や学校評議員のからの評価等を積んだりしていきたい。</p>	

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立丹後こども園 ]

評価項目	重点目標	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
小中一貫教育の推進(保幼小接続)	『丹後学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき、取り組みを進める。 ・保幼小中の連携を密にし、スムーズな接続を図る。	前年度の成果と課題 ・5歳児を中心に年間を通して、様々な運動遊びに挑戦した。運動に苦手意識のある園児も、友達の頑張る姿に刺激をうけたり、保育者が励ましたり見守ったりする中で意欲をもち取り組めた。5歳児の姿に憧れて4歳児、3歳児がやってみようとする姿につながった。 ・情緒の安定を図り安心して話す、相手の思いを聞くことに重点を置き保育教諭は丁寧な関わりを心掛けた。しかし複雑な家庭環境もあり、安定を図ることは難しいこともあった。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を園内研修で学びあった。遊びの中で育っている姿や関わり方の工夫など保育者間で話し合うことができよかつた。しかし研修時間の持ち方や内容等はまだまだ十分ではない為、工夫が必要である。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) 言葉「笑顔まんたん ゴーゴゴー!!」 ～遊ぼう 笑おう 伝えよう～ ・様々な活動を通して人と人とのつながり、いたわりや優しさ、思いやりや心の育み、心豊かな人間性、社会性をもった園児を育成する。 ・聞く力や話す力が身に付くよう、計画的に取り組み、自分の思いを言葉で表現するなど言葉の力の向上を図る。 ・保護者や地域との連携、また丹後学園保幼小中連携を深め、様々な体験や活動を積極的に取り入れ、たくましく健やかな体と心をもった幼児の育成に努める。
	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
		・『丹後学園』小中一貫教育に関する諸会議や公開授業等に出席参加し内容を全職員で確認する。 ・接続部会夏季研修会では、保育参観や指導実践交流を行い、発達の段階や特性に即した効果的な指導方法及び指導の連続性・一貫性について研修する。 ・保幼小連絡会を設け、参観・懇談をする中で早い段階で課題などを見つけ就学に向けてスムーズな接続につなげる。 ・学校行事の見学や体験入学等により、子ども達の就学に対する意欲や憧れをもたせる。 ・近隣にある丹後中学校との合同避難訓練等の連携も引き続き行う。	○丹後学園接続部会で行ったスタートカートカリキュラムの研修、保育参観や0期～1期における指導の系統性を小中学校の先生方と一緒に学び合ったことは、今後の幼小接続に活かされる。 ○なかよし交流会の取り組みの中で、小学1年担任の先生と、5歳児担任がそれぞれねらいをもち一緒に活動を進めることが出来た。体験入学までに、何度も交流する機会があり例年に比べ小学校への期待も楽しみが高まっていた。 △活動内容については1年担任、5歳児担任が話し合う時間をつくる必要がある。

<p>教育課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの体験を通して心身ともにたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ幼児を育成する。</li> <li>・遊びを通して思いやりや優しさ、思いやりの心を育む。</li> <li>・言葉の力の向上、人の話を聞く、自分の思いを伝えることができ、自分から進んで挨拶や返事ができるような環境をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を使った遊び（体操・リズム運動・散歩・散歩・なわとび・竹馬・固定遊具等）を積極的にとり入れる。</li> <li>・小動物の飼育、栽培物の世話と一緒に行う。</li> <li>・異年齢活動（チーム活動、クッキング、運動会に向けての活動等）を通して年下児へのいたわりの気持ちをもったり、年長児に対して憧れの気持ちをもったりできる環境設定を考える。</li> <li>・絵本や物語などに親しむことで、言葉の力を豊かにする。</li> <li>・保育者が園児の話にしっかりと耳を傾ける。</li> </ul>	<p>○年間を通して、年齢や発達に合わせた運動遊びをとり入れ行なった。意欲的に取り組む園児の姿を大切に、保育者は寄り添い自信となるよう援助をした。運動に苦手意識のある園児も友達の良い姿や励ましの言葉かけにより、やってみようとする姿になった。5歳児の姿をいろいろな場面や行事の中で見ることができ、3・4歳児は親しみや憧れの気持ちをもち、兄弟のような関係を育むこともできた。</p> <p>○5歳児の挨拶当番が玄関で「おはよう」と登園してきた園児や保護者を迎えるなかで、挨拶が浸透してきた。保護者にも好評であった。</p>
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や未就園児の保護者のコミュニケーションの場をつくり、子育ての安定を図る。</li> <li>・支援を要する園児に対しての支援策を園全体で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会など、保護者同士が子育ての悩みなどを話しあえる場をつくる。</li> <li>・子育て支援センターや園開放、園庭開放により未就園児との交流をもつ。</li> <li>・子育て講演会への参加を呼びかける。</li> <li>・預かり保育、一時預かり保育制度を活用し、子育てに疲れや悩みを抱えている保護者支援を行う。</li> <li>・支援を要する園児に対して保護者や保健師、他機関とも連携をとり園全体で支援していく。</li> </ul>	<p>○△乳児クラスは保育参観の後、保護者同士が話をする場をつくり、子育てについて交流できた。幼児クラスでは機会をつくることができなかつた。</p> <p>○支援センターへ園児が出向き、歌や踊りの交流や行事の様子を見てもちろな交流を図った。</p> <p>○要支援児の保護者や何度も面談を行い、園児の発達や指導の方向性を保護者と共通理解して援助を行った。特に保健師と園との連携を密に行う中で情報交換もでき、保護者支援やいろいろな関係機関に繋げることができた。</p>
<p>研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき保育実践をする中で、乳児から幼児へと育ちを見通した保育がすすめていけるよう全職員で学び合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな研修に多くの職員が積極的に参加できるよう勤務体制の組み方を工夫する。</li> <li>・園内研修を積極的に組み入れ、園内公開保育やエピソード研究を行うなかで、0歳児からの年齢ごとの育ちがどのように「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に近づいていくのかを考え、全職員でよりよい子どもへの育ちへつつなげる。</li> <li>・乳児の発達を踏まえ、乳児が主体的に生活していくための保育者の援助の仕方や、環境の整え方を学び合う。</li> </ul>	<p>○△外部研修は、保育事情により参加人数が限られたので、職員会議で研修報告を行うようにした。</p> <p>○△園内公開保育を行う回数も少なかったが、実践交流を多く行った。そのなかで主体的な遊び、環境構成について悩みを出し合った。まだまだ環境の工夫については、課題も多く、学びを深めていかなければならない。</p> <p>○各学年で保育について話し合うための学年会議の時間をつくり、園児の支援や保育の方向性を共通理解するようにしたことで、保育者間の連携ができてきた。</p> <p>○職員で考えを出し合い、遊びのコーナーをつくり園児が好きな遊びを選択できるようにした。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児一人一人が安心安定できる環境を整え、遊びの中で様々な環境に関わり、「やってみよう」と心動かし主体的に活動する子どもを育てたい。</li> <li>・これまでに続けてきた挨拶運動、異年齢活動、健康な体づくりや、思いやりの心を育んでいきたい。</li> <li>・地域の人や伝承文化を大切にして、自然体験や感動体験を味わう中で地元愛を育てていきたい。</li> </ul>		

令和元年度学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立弥栄こども園 ]

<p>こども園経営方針(中期経営目標)</p> <p>「とんどち だいすき つながるえがお」          ~やってみたい!明日もやりたい!夢中にな          って遊ぶこどもをめざして~          ○さまざまなことを動かし、心豊かな子          どもを育てる。          ○生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康          な心と体を育てる。          ○身近な人や地域とのかかわりを持つ力を          育てる。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○異年齢活動や異年齢交流を行う中で、豊かな人間関係を          結ぶ力を育むことができた。          ○主体的に活動し、様々な体験活動を楽しみながら、体力          づくりや生き生き基礎を培うことができた。          ○弥栄学園小中一貫教育の推進により、園小の連携を充実          することができた。          △ホームページ、各種たより、参観など家庭や地域との連          携の工夫を図っていく。</p>	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>・子ども自らが様々な人や自然とかがかわり、また、          体を十分に動かして遊ぶ中で、心を揺り動かさ          れるような体験をし、豊かな感性を養う。          ・自らの健康や生活に関心を持ち、生活習慣の基          礎を培う。          ・人との関係を築く力をつけるために、あいさつ          や自分のことは自分でする力を育てる。          ・弥栄学園(小中一貫教育)の連携を図り、円滑          な接続ができるよう交流や研修を進める。</p>
<p>評価項目</p> <p>小中一貫教          育の推進          (保幼小          接続)</p>	<p>重点目標</p> <p>○『弥栄学園』の連携          故郷を愛し、主体的に学び、心          豊かで、たくましく生き抜く子          どもの児童生徒の育成          ・自分からやってみたいという          意欲をもって取り組む子ども          も(知)          ・思いやりのある子ども(徳)          ・進んで体を鍛える子ども(体)</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○経営会議で共通理解を図り、主体的な活動を進          めていくことができた。また、その細度情報交          流したことで就学に向けての引継ぎがスムー          スにできた。          ○異校種交流を行う中で、生活や学びの見通しを          もち、憧れの気持ちをもったり優しさに触れる          ことができた。          ○園・小・中の教職員合同研修で弥栄こども園で          の公開保育をしたことで具体的な指導を見て          いただけでなく、学園のつながりを感じる          ことができた。また、こども園からも授業研に          参加させてもらうことで、より共通理解するこ          とができた。          △1年生との交流活動は、就学に向けての安心感          につながったが、交流活動の事前の会議が不十          分だった。</p>
<p>教育課程</p>	<p>具体的方策</p> <p>・弥栄学園経営会議に出席し、子どもたちの実態から課題          点を見つけ共通の目標をもつ。          ・中学校との連携          (中学校福祉体験・作品交流・参観)          ・小学校との連携          (参観・体験入学・運動会やマラソン大会見学・一          年生との交流)          ・高校生との連携          (保育体験・花の種まきと交流)          ・園・小・中の教職員合同研修会</p>	<p>年間を通じて園外保育や戸外活動を中心に自          然に関わり発見や感動体験を重ね、豊かな心や          感性の育成につながった。          ○畑作りという土台づくりから始めたことで、よ          り食への関心や感謝の気持ちをもつことがで          きた。</p>
<p>教育課程</p>	<p>具体的方策</p> <p>・園内外の自然の中で五感を通して遊ぶ。          (園内) 砂、泥遊び、プール遊び、園内の草花、クッ          キング活動、虫捕り、小動物の飼育          (園外) 丹後王国食のみみやこ・弥栄運動公園・水辺公          園・稚拙の放流など          ・自然や自然物を取り込んで遊ぶ。          (草花・砂・水・泥・木の葉・木の葉・雨・雪など)</p>	<p>年間を通じて園外保育や戸外活動を中心に自          然に関わり発見や感動体験を重ね、豊かな心や          感性の育成につながった。          ○畑作りという土台づくりから始めたことで、よ          り食への関心や感謝の気持ちをもつことがで          きた。</p>

	<p>○自分の思いや考えを様々な方法で表現したり、行動できる力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの健康や生活に関心をもち、リズムある生活が習慣になることを意識できるようにする。 (生活点検表・登園時間)</li> <li>・体を動かし指先を使い、体と心のバランスがとれた体力づくりをする。</li> <li>・絵本や読み聞かせを通して言葉の表現を楽しんだり、友だちの思いや自分の思いを伝える機会を多くもつ。</li> <li>・異年齢での交流を深める。</li> <li>・地域の方々や高齢者との交流を通して親しみの気持ちをもつ。</li> </ul>	<p>△生活点検表や個人懇談等で、子どもや保護者に意識をもってもらおうようにしたが、まだ不十分であるので今後も引き続き取り組んでいく。</p> <p>○活動の前後の振り返りや話し合うことにより、友達のことを知ったり、自分の考えを伝えようとする子どもが増えた。</p> <p>○年間を通して異年齢の活動を行うことにより、相手の立場にたった言葉のかけがえができた。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、楽しく子育てができるよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て相談</li> <li>・園開放(月2回)</li> <li>・預かり保育</li> <li>・支援センターの利用</li> <li>・一時預かり制度の利用</li> <li>・ホームページ、各種たより、参観などで子どもの成長を伝える。</li> </ul>	<p>○毎日担任が丁寧に子どもの様子を伝えたり、月末には写真を貼り出し子どもの成長を共に喜ぶことができた。</p> <p>△担任とのコミュニケーションは十分にとれてきたが、保護者同士が話す機会が少なかった。クラス懇談会なども考えていきたい。</p>
家庭・地域との連携	<p>○人とかかわりの中で生きる力を育む。</p> <p>○あいさつや自分のことは自分でする力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登園時間を9時までとし、集団で行動することの大切さや楽しさを知る。</li> <li>・社会人講師を迎えて様々な体験をする。 (読み聞かせ・お茶会など)</li> <li>・弥栄分校との交流(保育体験や花の種まき など)</li> <li>・高齢者との交流 (サロンとの交流・祖父母参観)</li> </ul>	<p>△担任が9時までに登園して十分体を動かすことの大切さを保護者に伝えてはいるが、意識の低い保護者がいる。引き続き取り組んでいく。</p> <p>○地域の方と交流することで様々な体験をすることができた。</p> <p>○△園内での挨拶の習慣は身につけているが、自分から挨拶をする、思いを伝えるということに引き続き取り組んでいく。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○弥栄学園の目指すことも像の育成に努め、つながりのある教育活動を充実させていく。</p> <p>○弥栄ことも園の教育について、便りやホームページ、行事などの機会に保護者や地域に情報発信していく。</p> <p>○認定ことも園教育・保育要領に基づき、一人一人の育ちに合わせた援助・支援の充実、環境構成をしていく。</p>		

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立かぶと山こども園 ]

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
<p>小中一貫教育の推進 (保幼小接続)</p>	<p>○『久美浜学園』の『教育目標』に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもを育成」 『目指す子ども像』に向けて教育内容の相互理解を深め、一貫性のある指導を行う。 ○保育所園小学校と連携し、学園テーマく主体的・対話的で深い学びの実現を意識した「言語活動の充実」を追求し、自ら考えを深める子どもを育成する。</p>	<p>具 体 的 方 策</p> <p>(1) 久美浜学園を通して子どもの実態を交流し、共通の『目指す子ども像』や『教育目標』に向けて一貫性のある指導をしていく。 (2) 小学生や中学生との交流を行う。 (3) 小学校との連携 ・運動会見学・体験入学・授業体験・プール体験・学習発表会見学・マラソン大会応援・園外保育 等 (4) 保幼小の連携 ・合同研修会・教師、保育教諭、保育士の交流・アプローチプログラムとスタートカリキュラムの評価と改善・入学までにつけたたい力と入学後に継続したい取組の明確化・学力向上(保幼から低学年に向けての言葉の力の育成)の授業と事業 等</p>	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>○園児が安心して活動に取り組み、自己発揮できる環境やかかわりを工夫し、自己肯定感や自己有用感を育む。 ○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動がでできる環境構成を工夫する。 ○自分の思いや考えを言葉で表現できる力を育む。 ○家庭や地域と連携して規範意識や道徳性・社会性の芽生えを育む。 ○特別な配慮を必要とする園児に対し、適切な支援を受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。 ○久美浜学園として『目指す子ども像』『教育目標』に向かい、保育の質の向上と連携に努める。 ○子育て支援と家庭教育力向上を目指し努力する。</p>
<p>こども園経営方針(中期経営目標)</p> <p>こども園教育・保育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》 「ぼくもわたしたち みんな大好き！」 ～包みこまれる安心感の中で、のびのびと生きる子どもをめざして～ 1 園児自らに興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○こども園近辺の自然の中で毎日遊んだり、散歩したりし、全園児の体力増進に努めた。冬季の感染症も大流行には至らず、元気に過ごせた。 ○研究テーマを設け、遊びの環境や保育者の関わりを工夫してきた。一人一人の自発性を大事にしながら、一人一人に寄り添った保育を心がけた。また、クラスや学年の会議を通して環境や園児への関わりを工夫し、共通理解することには保育の質の向上にもつながった。 ○「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちのチャレンジに関わることで、地域の方とも関わる機会がもてた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方がつながるきっかけ作りができた。さらに保護者会と一緒に、「子育て」「親育ち」を目指したい。 △「挨拶をする」「話を聞く」「健康的な生活習慣を身につける」「親子で絵本に関心をもつ」園児が増えるよう様々な方策や工夫をしていきたい。</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○「久美浜学園」夏季研修会では、昨年度よりさらに乳幼児保育の中で非認知的能力を大事にしている保育について交流できた。 ○小学校プールでの「チャレンジプール」「1年生との交流」「2年生との交流」「学習発表会学」等、体験入学までに小学校を体験することは、教師や小学生と交流し、顔なじみになり、就学に向けて安心感と期待感に繋がっている。 ○中学生と吹奏楽演奏会や職場体験で交流した中で、「考える」「協力する」「言葉で伝える」「園児に積極的に関わる」力を中学生が持っていることを知り、学園の取組の成果を感じた。 ○普段から小学校への園外保育を行い、園児も職員も小学校を身近に感じている。 ○保育所・園と合同で研修を行い、質の向上に努めた。</p>	

教育課程	<p>○主体的・協同的に活動する力を育てる。</p> <p>○自己肯定感を育む。</p> <p>○自分の思いや考えを表現し、人と関わりの力を養う。</p> <p>○自らの健康やリズムある生活に関心を持ち、基本的な生活習慣や態度を身につける。</p> <p>○人権尊重・規範意識や道徳性・社会性の芽生えを培う。</p>	<p>(1) 様々な体験や人との出会いの機会を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の中で、五感を豊かにする。</li> <li>・様々な行事参加や体験活動をする。</li> <li>・園児が遊びや生活の中で主体となるような環境構成を工夫する。</li> <li>・異年齢交流をする。</li> </ul> <p>(2) 感動体験をする機会や言葉で思いを伝え合う機会を設定する。</p> <p>(3) 挨拶を奨励する。</p> <p>(4) 絵本や物語に親しむ機会を設定する。</p> <p>(5) 自立心を育てるような機会の設定をする。</p>	<p>○全園児が各年齢なりにこころも園近辺の自然の中で遊べたり、散歩したりする等「健康な心と体」作りを元気に過ごす保育に徹した。感染症も大流行せず、園児、聞く力が弱い園児が多かったことが難しいこととで落ち着き、集中する力も表れてきた。</p> <p>○「ほくもわしたし、もみんな大好き」～包みこもをめざしている安心感の中で、のびのびと生きる子どもを工夫して～を研究テーマに環境や保育者の関わりを工夫してきた。乳幼児一人一人の理解と、特性や個性を十分大事にしなが、一人一人を受け止め寄り添い、認める関わり、保育を心がけた。保健師や学校教育課程臨床心理士との連携により、乳幼児について共通理解することは保育の質の向上にも繋がった。</p> <p>○職員が温かい雰囲気、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になるよう努めた。保護者と話す機会を設け、信頼関係の構築に努めた。</p> <p>○学園としての取組である「家庭学習頑張り表」を通して親子の生活習慣に対する意識が昨年度より向上した。</p> <p>○子どもにも一生懸命に向かう保護者、参観中や集会で静粛でマナーも良い保護者が増えたと思う。役員も立候補が多く、保護者の主体性を嬉しく感じる。</p> <p>△提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援の工夫が課題である。</p> <p>○保護者会本部役員を中心に「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちやチャレンジに関わったり、地域の方とも関わったりすることが定着してきた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がる機会にもなった。また、自治会と計画し、サロンの園行事参加を通して世代交流ができた。</p>
子育て支援	<p>○保護者の気持ちに寄り添い、安心して子育てができるよう支援すると共に保護者が子どもたちの成長に気付き子育ての喜びを感じられるようにする。</p> <p>○家庭の教育力向上を図る。</p>	<p>(1) こども園でおしやべり会・子育て相談(随時・毎月)</p> <p>(2) 園開放・園庭開放</p> <p>(3) 預かり保育、一時預かり保育の活用</p> <p>(4) 支援センターの利用</p> <p>(5) 子育て講演会</p> <p>(6) 懇談会・保育参観・給食参観</p> <p>(7) 誕生児と保護者への紙芝居や絵本の貸し出し 等</p>	<p>○職員が温かい雰囲気、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になるよう努めた。保護者と話す機会を設け、信頼関係の構築に努めた。</p> <p>○学園としての取組である「家庭学習頑張り表」を通して親子の生活習慣に対する意識が昨年度より向上した。</p> <p>○子どもにも一生懸命に向かう保護者、参観中や集会で静粛でマナーも良い保護者が増えたと思う。役員も立候補が多く、保護者の主体性を嬉しく感じる。</p> <p>△提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援の工夫が課題である。</p> <p>○保護者会本部役員を中心に「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちやチャレンジに関わったり、地域の方とも関わったりすることが定着してきた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がる機会にもなった。また、自治会と計画し、サロンの園行事参加を通して世代交流ができた。</p>
家庭・地域との連携	<p>○家庭地域との連携と子育て支援を行う。</p> <p>○保護者同士や保護者と地域がつながり、園と協力して「久美浜を支える人」育成の土台づくりを行う。</p>	<p>(1) 田植え体験・稲刈り体験ボランティアの活動</p> <p>(2) 交通安全ボランティアの活動</p> <p>(3) 絵本の読み聞かせボランティアの活動</p> <p>(4) お茶会ボランティアの活動</p> <p>(5) 保護者会の協力</p> <p>(6) 久美浜学園家庭教育委員会との連携 等</p>	<p>○職員が温かい雰囲気、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になるよう努めた。保護者と話す機会を設け、信頼関係の構築に努めた。</p> <p>○学園としての取組である「家庭学習頑張り表」を通して親子の生活習慣に対する意識が昨年度より向上した。</p> <p>○子どもにも一生懸命に向かう保護者、参観中や集会で静粛でマナーも良い保護者が増えたと思う。役員も立候補が多く、保護者の主体性を嬉しく感じる。</p> <p>△提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援の工夫が課題である。</p> <p>○保護者会本部役員を中心に「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちやチャレンジに関わったり、地域の方とも関わったりすることが定着してきた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がる機会にもなった。また、自治会と計画し、サロンの園行事参加を通して世代交流ができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>・質の高い乳幼児教育と職員のチーム力を向上させていけるよう工夫していく。</p> <p>・「健康な心と体作り」「学習意欲や主体的活動」への取組について保護者会と連携し、家庭教育力の向上を目指す。</p> <p>・提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援を工夫し、親子の自己肯定感を育てる。</p>		